

2021 JANUARY

住み慣れた土地で 生き生きとした暮らし

八日

vol. 23

和

DAI2 NARITA
MEMORIAL
HOSPITAL



2021年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、コロナで始まりコロナで終わっ、否、未だコロナ禍の真っ只中にあります。昨年年初には、前年秋に日本中がOne teamを合言葉にラグビーで盛り上がり、7月には2020東京オリンピックを迎え心弾む1年を送るとの思いでご挨拶申し上げました。コロナ禍は、予想を遥かに越え、一波、二波、三波と繰り返し世界中に拡がり、まるでTV映画のバイオハザードのように人々を襲い、その生活を脅かしてきました。

私共も、昨年は、開院以来15周年を迎え、記念行事として学術講演会や公開講座を開き、また、スタッフは学会や研修会等へ積極的に参加し、日々の診療の向上を図っていく所存でしたが、何れも所謂“3密(密閉・密集・密接)対策”の一環として中止、あるいは、縮小したテレワーク等にて、閉ざされた一年を過ごしてきました。幸いにも15年の歩みと抱負を述べた記念誌を発行することができ、関連施設の方々には、お褒め・叱責・励ましのお言葉を頂き、更なる飛躍へ繋げたいと思っています。

冒頭より、明るさを欠くご挨拶となっていますが、新聞のリサーチ欄に目を向けますと、毎週“ボツンと一軒家”なるTV番組が高視聴率を得ています。日曜日のゴールデンタイムに何故との思いで見えますと、現代のIT化、機械化、

合理化、高度文明化した営利主義社会の中で、殺伐とした都会を離れ、緑豊かな自然に育まれた自給自足の生活を通じて、心の豊かさ、温かさ、人間らしさをほんのりと感じさせてくれる番組でした。人々が孤立化し、ゆとりを失い、ストレスを溜め、潤いを求めての高視聴率かと思われます。

当院でも、コロナ禍、患者の皆さんとご家族が満足に会えない日々が続いています。アクリル板越しの面会やリモート画像での対話もありますが、決して満足いくものではありません。面会の工夫もさることながら、日々の病棟生活に於いて、私共が、ご家族に代わって、患者さんの心に寄り添い、接して行くことが重要かと考えます。

当院は、“「人としての尊厳」と「自分らしさ」を根源に、住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します。”を基本理念として掲げ、

- (1) 地域の医療機関と連携を図り、地域医療に貢献する。
- (2) 安心安全で質の高い医療とリハビリテーションを提供する。
- (3) 法令を遵守し、健全な病院経営をする。

を基本方針とし、思いやりの心を持って、その役割を果たして行く所存です。

本年も宜しく願い申し上げます。

院長 西村康明



スタッフ一同よろしく願いいたします

第二成田記念病院開院15周年を迎えて

おかげさまでこの度、第二成田記念病院は開院15年を迎えました。2005年9月2日、豊橋市内で初の回復期リハビリテーション病棟を有するリハビリテーション専門の病院として華々しく開院を迎えましたが、当時は回復期リハビリテーション病棟が制度化されて数年、連携する医療機関や介護保険事業所、世間一般においても回復期リハビリテーション病棟についての認知度がまだ低く、またこのような病棟で働いた経験のあるスタッフも皆無で、実際に業務を行う我々スタッフも回復期リハビリテーションというものを十分理解できておらず、手探り状態での船出だったように思います。

あれから15年、今では東三河地区において、急

性期病院からの紹介数第1位、最多の病床数を誇るリハビリテーション病院にまで成長を遂げることができました。ここまでこれられたのも、地域住民の皆様、連携する医療機関・介護保険事業所のスタッフの皆様を支えられ、職員一同頑張っ

て築き上げてきた賜と感謝申し上げます。そして現在も僅かな歩幅ではありますが、当院は少しずつ成長をしております。今後も当院の理念であります『「人としての尊厳」と「自分らしさ」を」根源に、住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します』を基本理念として、地域におけるその役割を果たしていく所存であります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

リハビリ室室長 後藤健一

新しい仲間が増えました



看護師
水野 江莉

11月より入職しました。分からない事ばかりでご迷惑をお掛けしますがよろしくお願いします。気軽に声をかけていただくと嬉しいです。



准看護師
黒岩 みな美

7月より4階Dチームで勤務しています黒岩です。未熟者で迷惑ばかりかけていますが、向上心と笑顔を忘れる事なく日々の業務に取り組んでいきたいです。これからもよろしくお願いします。



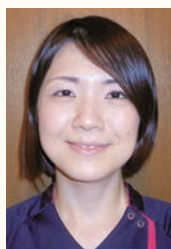
介護福祉士
吉永 御由紀

8月に入職した介護福祉士の吉永です。初めてのことが多くご迷惑をお掛けする事がありますが、自分なりに努力していきたいと思っています。宜しくお願いします。



言語聴覚士
兼井 有里

以前は名古屋の回復期病院で勤務していました。慣れない土地で不安もありますが、少しでも早く患者様に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。



放射線技師
山口 良美

8月より成田記念病院より異動となった診療放射線技師の山口良美です。本院での経験を生かし、患者様の負担や痛みを軽減しながらの撮影を心掛けています。患者様の確かな診断のために精度の高い撮影ができるよう努めます。よろしくお願い致します。



冬の乾燥肌・かゆみ対策

日に日に寒さが増してきて、本格的な冬を迎えようとしています。冬は乾燥が気になる季節。肌が乾いてカサカサしたり、かゆみが出たりといった乾燥肌トラブルに悩む方も多いのではないのでしょうか。

気温が低くなると血行が悪くなり、肌細胞に栄養が届きにくくなります。また、寒さの激しい冬は、皮脂と汗の分泌が急速に少なくなります。さらに空気の乾燥により、肌の水分は次々と蒸発、皮膚表面がガサガサとなりバリア機能も低下し、外的刺激に対して過敏に反応するようになり、かゆみを引き起こします。

乾燥肌は、他の病気と比べると痛みなどはありませんが、放っておくとひどくなることもあります。特に秋冬は風邪などの予防と合わせて乾燥肌対策を積極的に行うとともに、炎症や湿疹があるときは早めに専門医へ受診しましょう。

看護師長 岡田佐加絵

「冬の乾燥肌・かゆみ対策」

- ① 入浴はぬるめのお湯に短時間
- ② こすらず優しく洗う
- ③ 加湿器などで室内の湿度を確保
- ④ 症状が出る前から保湿剤を塗る
- ⑤ ビタミンA・Eを積極的に摂る

知ってほしい！

介護保険

「平均寿命」と「健康寿命」を知っていますか？

平均寿命－健康寿命＝日常生活において制限や介助が必要になる可能性が高いことを表しています。最近ではよく耳にするようになった“介護保険”も施行から20年が経ちました。

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、知っておきたい制度です。

対象

65歳以上（原因に関わらず介護が必要になった方）
40～64歳まで（老化が原因とされる特定疾病により介護が必要と認定された方）

要介護認定

訪問調査と主治医意見書を総合的に審査され、介護を必要とする度合いを判定
要介護1～5、要支援1～2、非該当

サービスの種類

訪問介護、訪問看護、訪問リハビリ、デイサービス、デイケア、
ショートステイ、福祉用具貸与・購入、住宅改修など

利用者負担

サービスにかかった費用の1～3割（所得に応じて）

介護サービスを受けたい、介護予防したい、そんな時は市町村の介護保険窓口や地域包括支援センターに相談しましょう。入院・通院中の病院の相談室でも教えてください！

相談室 主任 名倉朋子

食べる力を鍛えよう！身近に潜むえんげ障害

「誤嚥性肺炎」や「えんげ障害」という言葉を耳にしたことはありませんか？
私たちに欠かすことのできない「食べる」ことに障害を受けてしまう状態のことで、普段何気なく行っている飲み込む動作も加齢と共にだんだんと低下していきます。
いつまでも美味しく・楽しく食事を楽しむことができるように今回は自宅でできるトレーニングをご紹介します。お口の若さを保つために、ぜひやってみましょう！

チェック

30秒間で、つばを何回飲み込むことができますか？

2回以下だった場合には、飲み込む力が弱くなっている可能性が高いとされています。

自宅でできる飲み込みのトレーニング

1 深呼吸（最初にリラックスして） 3回  鼻から息を大きく吸い込み。口をすぼめて大きくゆっくり吐く。	2 首の体操 3回  首を左右に傾ける。左右横を向く。大きく回す。	4 お口の周りの筋力アップ 3回  歯茎をがんで口を横に引く。唇を突き出す。頬を膨らます。	5 舌の体操（お口の動きを良くする体操） 3回  口を開けたまま舌を前方に突き出す。口を開けたまま舌を左右に出す。
3 唾液を出しましょう（唾液腺マッサージ）  舌下腺、耳下腺、顎下腺。耳下腺への刺激：上の歯茎のあたりを後ろから指の腹で回す（10回）。顎下腺への刺激：耳の下からあごの下までお指の腹を縦横に押す（各5回ずつ）。舌下腺への刺激：あごの裏下から親指をつきあげるようにゆっくりグーッと押す（10回）。		6 お口の体操 3回  唇を吸い込む。大きく声を出す。鼻音、発声の練習。「パ・タ・カ・ラ」 7 最後に1深呼吸をもう一度 3回  口を大きく開けて舌を上あごにつける。口を開けて舌先を大きく回す。	

注意

こんな症状があったら、要注意！
いつもと何か違うなと感じたら、
近くの病院を受診してみましょう。



他にも...

- ・唾液が少ない、口が渇く
- ・舌が乾燥している
- ・夜寝ると喉が出る
- ・痰（たん）がからむ など

言語聴覚療法室主任 倉田真莉

編集後記



12月に入り寒さを感じるようになり、庭にも寒椿が冬の庭に彩りを添えています。何とはなしに身近なところに目を向けることが多くなったような気がします。インターネットの情報を見ると遠くへの旅ができない今、バーチャル旅などが紹介されています。行ったことがあるところ、行ったことのない所など映像で見ても美しいです。しかし、ちょっと違う。

当院の患者さまたちも肉親や親しい人となかなか会えません。さっと不安や寂しさでいっぱい新しい年を迎えられたことでしょう。アクリル板を隔てた面会より、電子媒体での面会より手を握りたい気持ちでいっぱいだと思います。一方では私たち医療者は感染をさせない、しないと必死になっています。私たちができることは、より一層患者さまのお話にしっかり耳を傾け、共に乗り越え笑顔で新しい年を始めたいと思います。

看護介護部長 内田 ひとみ

病院基本理念

「人としての尊厳」と「自分らしさ」を根源に、
住み慣れた土地での生き生きとした暮らしへの復帰を支援します。



社会医療法人 明陽会

第二成田記念病院

〒440-0855 豊橋市東小池町62-1 TEL. (0532) 51-5666
http://www.meiyokai.or.jp/narita2/ FAX. (0532) 55-0660